

アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身のkikuさんが綴るふるさとエッセイ

—あいなん音故地新— 「大切なことは伝わりにくい」

本当に大切なことは、言葉では伝わりにくい。自分の想いもそうやけど、後世に残していきたいことや、語り継いでいきたいこと。伝統や技術。その時のその瞬間の空気感や、感動や、想いってというのはどんだけ言葉をうまく使っても100パーセントは伝わらん。

鍼灸の世界も歴史は長い何千年と受け継がれてきたことが書物として残されて今に至るただ、人によって表現の仕方も違えば受け止め方も違うから同じ本を100人が読めば100通りの解釈になる。そして、その本を読んだ人がその内容を誰かに伝えるとなると、また形を変えていく。やから、できるだけ、素晴らしいと思う人には会えるなら会ったほうがいい。同じ空間の中でその存在を全身で感じたほうがいい。

それは音楽でも同じ。生演奏の素晴らしさに敵うものはない。距離が近ければ近いほどいい。鍼灸の技術や剣道の技術も間近で見るとまったく違う。身近な存在でいうと、料理人や職人も同じ。人のもつオーラや“気”は本や画面じゃ読み取れんから。自分の目で見て、手で触れて、肌で感じて大切なことを受け取りたいと思うようになった。叶わんこともあるんやけど、できる限りそうしようと思う。

(テノヒラkiku)

あいなん物産探訪 その⑧

「真鯛」

大西水産(有)

社長 大西 ^{ひかる}光さん



魚の王様とも呼ばれる真鯛、日本では昔から「めでタイ」の語呂に合わせて重宝されている晴れの魚だ。愛媛県宇和海産の養殖真鯛は全国シェアの半分以上を占めており、愛南町も一大産地になっている。

福浦地区で真鯛養殖を行う大西水産有限会社で、出荷の様子を見学させていただいた。

1日約2,000尾を出荷しているという大西社長。出荷は、鯛の鮮度を保つために手際の良い流れ作業で行われている。従業員さんの手で選別された鯛が活魚車に収まるまでわずか数十秒という早業だ。

「福浦湾は年間を通して温暖な水温が保たれるなど養殖に適した条件がそろっている」と大西社長。「養殖鯛の強みは、安全安心が当たり前にうたえること。養殖技術が向上して、味も良くなってきている」と力を込める。

作業が一息つくと、事務員さんが海に向かって駆け出してきた。福浦湾の眺めを毎日スマホで撮影して、発信しているのだという。

「福浦湾ってきれいですよね」。その足元では海底まで透けて見える海が朝日で輝いていた。

